



性被害の実態調査 アンケート 公訴時効についての報告

一般社団法人 Spring

2020年10月14日

【目的】

性暴力被害の実態を把握し、社会に伝える

【方法】

- 調査方法 : WEB アンケートを作成し Spring の WEB サイトにて公開した。
WEB アンケートについて、Spring の SNS およびメーリングリストで告知を行った。
- 調査内容作成 : アンケート項目は、Spring スタッフおよび OneVoice メンバーが実態調査という目的に沿って作成したものを、Spring の要請に基づいて外部協力研究者が修正し、Spring スタッフおよび OneVoice メンバーとの数回にわたる協議、試行の後に決定した。
- 調査内容 : アンケート項目は、現在の年齢と性別（または性自認）、出来事の内容を尋ね、何歳の時に起きた出来事か、継続的な被害であったか否か、加害者の人数、加害者の性別、加害者との関係、被害時の自分の状態、被害時の加害者の言動、被害認識、相談行動、刑事手続結果、被害の記憶の有無、性交を知った年齢、性交に同意できると思う年齢について尋ねた。
- 調査期間 : 2020年8月16日から2020年9月5日まで
- 対象者 : 性被害を受けたことがあるならば、年齢性別を問わず回答可能とした。
なお、回答は出来事ごととしたため、1人が複数回の被害に遭遇しており、複数回の被害について入力したいと考えた場合には、アンケートに複数回回答することとなる。
- 倫理事項 : 説明文にて性被害経験について問うアンケート項目であることを明記し、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターおよび全国被害者支援ネットワークの連絡先を掲載した。また、年齢と性別以外に個人が特定される情報は尋ねないこと、回答は任意であること、回答を途中でやめても不利益がないこと、回答内容の多くは統計的にまとめられること、自由記述の項目で個人が特定されかねない情報が含まれていた場合には削除した上で結果を公表することなどを記載した。
- 分析 : データの分析は Spring 内有志のスタッフおよび外部協力研究者が行った。

【限界】

- ・本調査は **Spring** が **SNS** 等で広報し、回答を集めたため、回答者は日ごろから性暴力・性犯罪の問題に関心を抱いている被害当事者、あるいは自身の被害について社会に伝えたいという思いを持った当事者であった可能性がある。そのため、無作為抽出のデータと比較して、回答にある程度の偏りが生じていることが推測される。
- ・**WEB** アンケートは一般的に、対面で紙媒体で行う質問紙調査と比較して、回答に虚偽が混ざる、あるいは問題文を精読せずに回答する傾向が見られ、努力の最小限化検出項目を用意する必要性も言及されているが、本調査は被害内容について回答を求めるとい調査の性質に鑑み、質問項目を最小限にと作成したこともあり、そうした項目は設けていない。

【データの概要】

- ・回答総数は 5911 件であった。
 - ・そのうち最初の質問以降回答のなかった 12 データを削除し、5899 件のデータについて分析を行った。
 - ・また、データを出来事内容別に分けた分析も実施した。
 - ・なお、回答者への負担を軽減するため、すべての項目で「回答しない」ことが可能であり、欠損値が生じている。
- ・出来事内容は以下の項目で尋ねた。
「加害者に身体の一部や異物を口や肛門、膣に挿入された／させられた」「加害者の性器、胸等を触らせられた」「加害者に衣服の上から身体を触られた」「加害者に服を無理やり脱がされた／脱がさせられた」「加害者に衣服の下にあたる部分の身体を触られた」「加害者に下着や裸を撮影された」「加害者の性器、胸等を見させられた」「その他」
- データの分け方は以下の通りである。

5899 データの定義

→出来事内容で分けず、5899 件すべてを含むデータ

「挿入を伴う被害」の定義 1274 件（以下「挿入を伴う」）

⇒「加害者に身体の一部や異物を口や肛門、膣に挿入された／させられた」にチェックが付いたデータ

「挿入を伴わない体に触れる被害」の定義 3764 件（以下、「体に触れる」）

⇒「挿入を伴う被害」をのぞき、下記の項目にチェックが付いたデータ

- ・加害者の性器、胸等を触らせられた
- ・加害者に衣服の上から身体を触られた
- ・加害者に服を無理やり脱がされた／脱がさせられた
- ・加害者に衣服の下にあたる部分の身体を触られた

「撮影のみの被害」の定義 64 件（以下、「撮影」）

⇒「加害者に下着や裸を撮影された」にのみチェックが付いたデータ

「見させられたのみの被害」の定義 378 件（以下、「見させられた」）

⇒「加害者の性器、胸等を見させられた」にのみチェックが付いたデータ

1. 現在の年齢

対象データ	分析データ数	平均	標準偏差	欠損値
5899 データ	5895	34.59	10.13	4
挿入を伴う	1274	35.94	10.58	0

対象データ	分析データ数	0-6	7-12	13-15	16-17	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-100
5899 データ	5895	0	2	14	66	139	1827	2116	1210	444	63	14	0	0
挿入を伴う	1274	0	0	1	14	26	345	452	282	136	15	3	0	0

2. 性別

・本人記載をまとめたもの

対象データ	分析データ数 (欠損値)	女性	男性	その他	Xジェンダー	ノンバイナリー	クエスチョニング	トランス男性	トランス女性	無性	決まっていない	中性	両性	クィア	トランスジェンダー
5899 データ	5898 (1)	5688	65	9	37	24	13	2	1	17	29	5	3	2	3
挿入を伴う	1274	1217	18		14	9	6	0	0	2	4	2	1	1	0

一般的には、上記セクシュアリティは以下のように定義づけられる。ただし今回は本人記載としたため、記載者の中の定義と異なる場合もある。

Xジェンダーとノンバイナリーは同じく、自身の性自認や性表現を男性や女性といった枠組みに限定しないセクシュアリティであり、本人の記載方法が異なったために分けて表記している。クエスチョニングとは、自分の性自認や性指向が決まっていない立場を意味する。トランス男性とは出生時に女性に割り当てられた男性であり、トランス女性とは出生時に男性に割り当てられた女性である。無性とは、男性・女性などの性という認識が無い性自認／中性とは男性と女性の真ん中の地点に性が存在している性自認／両性とは男性でもあり女性でもあるという性自認をそれぞれ示す。

3. 出来事内容

*各項目は、以下の内容で尋ねている。

複数回答が可能であり、回答者は、回答した被害の中で複数の行為が行われた場合には、複数の項目にチェックをつけている。

「加害者の性器、胸等を見させられた」「加害者に下着や裸を撮影された」「加害者の性器、胸等を触らせられた」「加害者に衣服の上から身体を触られた」「加害者に服を無理やり脱がされた／脱がさせられた」「加害者に衣服の下にあたる部分の身体を触られた」「加害者に身体の一部や異物を口や肛門、膣に挿入された／させられた」「その他」

対象データ	見させられた	撮影された	触らせられた	衣服の上から触られた	脱がされた／脱がさせられた	衣服の下触られた	挿入を伴う	その他
5899 データ	1845	428	1057	3770	992	2039	1274	870
挿入を伴う	497	208	543	679	621	763		

4. 被害時の年齢

対象データ	分析データ数	平均	標準偏差	欠損値
5899 データ	5871	15.39	7.43	28
挿入を伴う	1267	16.83	8.92	7

対象データ	分析データ数 (欠損値)	0-6	7-12	13-15	16-17	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-100
5899 データ	5871 (28)	567	1699	877	725	526	1226	191	50	9	1	0	0	0
挿入を伴う	1267 (7)	157	290	145	79	134	364	72	20	6	0	0	0	0

5. 被害継続年数

- * 「継続的な被害の場合には、その被害が終わった年齢をお書きください。今も継続している場合には「0」とお書きください」という質問に回答したデータのうち、「0」と回答したデータをのぞいたものを分析対象とした。
- * 「5899 データ」において 273 名は被害継続中（「0」）と回答した。被害継続中を合わせると継続被害は 2586 件。
- * 「挿入を伴う被害」において 64 名は被害継続中（「0」）と回答した。被害継続中を合わせると継続被害は 746 件。

対象データ	分析データ数	平均	標準偏差
5899 データ	2313	4.07	6.08
挿入を伴う	682	4.25	6.37

6. 加害者の人数

対象データ	分析データ数 (欠損値)	一人	複数	不明	欠損値
5899 データ	5888 (11)	5193	582	113	11
挿入を伴う	1273 (1)	1094	172	7	1

7. 加害者の性別

対象データ	分析データ数 (欠損値)	女性	男性	トランス女性	不明	男女両方
5899 データ	5780 (119)	67	5624	1	46	42
挿入を伴う	1247 (27)	12	1219	0	4	12

8. 加害者との関係

*表では省略しているが、それぞれの正式な尋ね方は以下の通りである。

同居している父(実父継父)・同居している母(実母継母)・別居している父(実父継父)・別居している母(実母継母)・親の恋人・兄弟姉妹
 親戚(祖父母おじおばいなど)・配偶者／パートナー／恋人・保育園や幼稚園、小中高、大学の先生や職員・塾や習い事などの先生・友人
 知人・児童生徒学生時代の先輩・児童生徒学生時代の後輩・就職活動で知り合った OBOG 等・仕事の上司・
 仕事の取引先、客など逆らいにくい関係者・自分がかかっていた医療機関の医療看護職心理職・自分の居住していた福祉施設の職員・
 自分の通っていた福祉施設の職員・見知らぬ人・その他

対象データ	同居父	同居母	別居父	別居母	親の恋人	兄弟姉妹	親戚	パートナー	教員職員	塾先生	友人	知人	先輩	後輩
5899 データ	204	13	9	0	21	173	197	170	118	87	158	290	106	11
挿入を伴う	55	1	1	0	10	63	56	124	29	25	62	139	30	2

対象データ	就活 OBOG	上司	取引先	医療関係者	居住施設	通所施設	見知らぬ人	その他
5899 データ	4	223	146	26	2	1	3332	605
挿入を伴う	2	75	65	7	2	0	310	216

その他には、ホストファミリー、同級生、同居人、顔見知り、同僚、自治体職員などが上げられた。

9. 刑事手続

*事件を警察に相談したという回答（5899 データでは 894 件、挿入を伴う被害のデータでは 208 件）に対し、刑事手続がどのようなになったかについて尋ねた。

*それぞれの項目について「はい/いいえ」で回答を求めた。下記の表は、それぞれの項目に「はい」と回答された件数である。

対象データ	警察に相談した	警察で被害届が受理された	警察で被害届が受理されなかった／被害届の存在を知らされなかった	検察で起訴された	検察で不起訴になった	裁判で有罪になった	裁判で無罪になった
5899 データ	894	415	429	53	56	42	5
挿入を伴う	208	104	94	9	14	8	1

【公訴時効について】

1. 「挿入を伴う被害」において、被害後すぐに「被害」だと認識できなかった件数は、回答 1274 件中 810 件 (63.6%)

「被害」だと認識できなかった場合に、被害の認識までにかかる年数は、平均 7.46 年 (標準偏差=8.24)、最小は 1 年以内、最大は 42 年であった。

なお、「被害後すぐに「被害」だと認識できなかった」と回答した件数のうち、被害時年齢別の被害の認識までにかかった年数は以下の通りである。(なお、年数を回答した件のみをまとめた)

被害時 年齢 (歳)	被害認識年数 (年)								総計	認識無群の うち 11 年以 上の%	回答総数に 占める 11 年 以上の%
	0-1	2-3	4-7	8-10	11-20	21-30	31-				
0-6	8	5	27	25	42	20	6	133	51.13	43.31	
7-12	25	29	67	23	33	13	8	198	27.27	18.62	
13-15	23	8	21	6	16	8	3	85	31.76	18.62	
16-19	41	26	18	7	21	5	0	118	22.03	12.21	
20-29	104	27	28	18	26	4	2	209	15.31	8.79	
30-39	22	8	2	5	2	1	0	40	7.50	4.17	
40-49	7	1	0	2	0	0	0	10	0.00	0.00	
50-59	3	0	0	0	0	0	0	3	0.00	0.00	

- ・被害時年齢が6歳までの場合、自分の身に起きたことを「被害」と認識したのが11年以上経過してからだったという回答について、「挿入を伴う被害」の回答総数に占める割合は**43.31%であった。**
- ・被害時の年齢が7歳以上20代未満の場合、自分の身に起きたことを「被害」と認識したのが11年以上経過してからだったという回答について、「挿入を伴う被害」の回答総数に占める割合は**10～20%程度であった。**
- ・ただし、20代でも8.79%、30代でも4.17%は11年以上かかっている
- ・なお、被害認識無群のうち11年以上の%は、 $11\text{年以上の件数} \div \text{総計} \times 100$
- ・なお、回答総数に占める11年以上の%は、 $11\text{年以上の件数} \div \text{挿入を伴う被害のその年齢カテゴリ回答件数} \times 100$
 - * 「挿入を伴う被害のその年齢のカテゴリ回答件数」は5ページ、4の二つ目の表の「挿入を伴う被害」の数値

2. 「挿入を伴う被害」において、被害に遭った後、被害に遭った経験の一部あるいはすべてについて記憶をなくしていた、あるいは思い出せなかった時期があった件数は、**回答 1274 件中 263 件 (20.6%)**

「一部あるいはすべてについて記憶を無くしていた、あるいは思い出せなかった」と回答した場合、記憶が戻るまでの年数は、**平均 10.8 年 (標準偏差=7.87)**、**最小は 1 年以内、最大は 34 年**であった。

ただし、回答時点でまだ大部分の記憶が戻っていないと回答した人も一定数いた。

なお、被害時年齢別の記憶をなくしていた／思い出せなかった年数は以下の通りである。（なお、年数を回答した件のみ）

被害時年齢	記憶が戻ってきた年数								総計	認識無群のうち 11 年以上の%	回答総数に占める 11 年以上の%
	0-1	2-3	4-7	8-10	11-20	21-30	31-				
0-6	1	0	0	2	6	4	1	14	78.57	7.01	
7-12	2	4	7	12	14	11	1	51	50.98	8.97	
13-15	2	0	8	2	5	2	0	19	36.84	4.83	
16-19	6	6	9	1	5	0	0	27	18.52	2.35	
20-29	3	8	15	7	16	5	0	54	38.89	5.77	
30-39	0	0	1	1	0	0	0	2	0.00	0	

- 被害時年齢が 6 歳までの場合、被害の記憶をなくしていた／思い出せなかった年数が 11 年以上という回答が回答総数に占める割合は **7.01%**
 - ただしどの年代にでも、被害の記憶をなくしていた／思い出せなかった年数が 11 年以上という回答は数%存在する
 - なお、被害認識無群のうち 11 年以上の%は、 $11 \text{ 年以上の件数} \div \text{総計} \times 100$
 - なお、回答総数に占める 11 年以上の%は、 $11 \text{ 年以上の件数} \div \text{挿入を伴う被害のその年齢カテゴリ回答件数} \times 100$
- * 「挿入を伴う被害のその年齢のカテゴリ回答件数」は 5 ページ、4 の二つ目の表の「挿入を伴う被害」の数値

3. 「挿入を伴う被害」において、身近な人に被害を打ち明けた件数は、回答 1274 件中 809 件 (63.5%)

「身近な人に被害を打ち明けた」と答えた人のうち、身近な人に初めて被害を打ち明けるまでの年数は、平均 6.58 年 (標準偏差=8.63)、最小は 1 年以内、最大は 52 年であった。

なお、被害時年齢別の身近な人に初めて被害を打ち明けるまでの年数は以下の通りである。(なお、年数を回答した件のみ)

被害時年齢 (歳)	身近な人に被害を打ち明けるまでの年数 (年)								総計	身近告知内で 11 年以上の%	回答総数に占める 11 年以上の%
	0-1	2-3	4-7	8-10	11-20	21-30	31-				
0-6	15	2	5	12	41	23	2	100	66.00	42.04	
7-12	48	8	35	25	54	15	10	195	40.51	27.24	
13-15	31	13	20	11	12	7	0	94	20.21	13.10	
16-19	77	14	18	9	14	1	0	133	11.28	7.04	
20-29	158	20	13	12	11	6	2	222	8.56	5.22	
30-39	28	3	2	0	2	0	0	35	5.71	2.78	
40-49	9	0	0	5	1	0	0	15	6.67	5.00	
50-59	3	0	0	0	0	0	0	3	0.00	0.00	

・被害時年齢が 6 歳までの場合、身近な人に初めて事件を打ち明けるまで 11 年以上経過している回答が回答総数に占める割合は 42.04%

・被害時の年齢が 7 歳以上 20 代未満の場合、身近な人に初めて事件を打ち明けるまで 11 年以上経過している回答が回答総数に占める割合は 7~27.24% くらい

・なお、被害認識無群のうち 11 年以上の%は、 $11 \text{ 年以上の件数} \div \text{総計} \times 100$

・なお、回答総数に占める 11 年以上の%は、 $11 \text{ 年以上の件数} \div \text{挿入を伴う被害のその年齢カテゴリ回答件数} \times 100$

* 「挿入を伴う被害のその年齢のカテゴリ回答件数」は 5 ページ、4 の二つ目の表の「挿入を伴う被害」の数値

4. 「挿入を伴う被害」において、被害について警察に相談したことがあるという件数は、回答 1274 件中 208 件 (16.3%)

警察に相談したことがあると回答した人のうち、警察に相談するまでにかかった年数は、平均 9.91 年 (標準偏差=7.51)、最小は 1 年以内、最大は 39 年であった。

なお、被害時の年齢別の警察に相談するまでにかかった年数は以下の通りである。(なお、年数を回答した件のみ)

被害時 年齢 (歳)	警察相談年数 (年)								総計	認識無群の うち 11 年以 上の%	回答総数に 占める 11 年 以上の%
	0-1	2-3	4-7	8-10	11-20	21-30	31-				
0-6	0	0	3	2	11	7	1	24	79.17	12.10	
7-12	1	2	10	5	21	2	1	42	57.14	8.28	
13-15	6	2	4	1	11	3	0	27	51.85	9.66	
16-19	5	8	4	2	8	0	0	27	29.63	3.76	
20-29	4	4	3	6	1	0	0	18	5.56	0.27	

・被害時年齢が 6 歳までの場合、被害を警察に相談したのが 11 年以上経過してからだったという回答が、回答総数に占める割合は 12.10%

・被害時の年齢が 7 歳以上 20 代未満の場合、警察に相談したのが 11 年以上経過してからだったという回答が、回答総数に占める割合は 10%未満
くらい

・なお、被害認識無群のうち 11 年以上の%は、 $11 \text{ 年以上の件数} \div \text{総計} \times 100$

・なお、回答総数に占める 11 年以上の%は、 $11 \text{ 年以上の件数} \div \text{挿入を伴う被害のその年齢カテゴリ回答件数} \times 100$

* 「挿入を伴う被害のその年齢のカテゴリ回答件数」は 5 ページ、4 の二つ目の表の「挿入を伴う被害」の数値